

令和7年 **7**月の**優しさ**通信

目次

- (1)  認知症不明者 18,121 人 昨年、全国警察に届け出
- (2)  速度 30 km規制ゾーンの事故 歩行の小学生、死者ゼロ
- (3)  施設入所「とても困難」 成人後の重度障がい者
- (4)  視覚障がい者の安全サポート 歩行訓練士「1人以下」16 県
- (5)  中学生の 1 割 起床時に不調



- (1)  **認知症不明者 18,121 人 昨年、全国警察に届け出**

G P S で早期発見・保護も

* 認知症やその疑いがあり、2024 年に全国の警察に届け出があった行方不明者は、前年比 918 人減の 18,121 人。

* 発見時に死亡が確認されたのは 491 人。

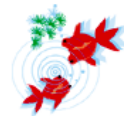
* このうち約 8 割の 382 人が、最後に姿が確認された場所から 5 km 県内で発見されました。

* G P S などを介して発見した行方不明者は 111 人で全員生存していました。

* 電波を発し、スマートフォンなどと連携して位置情報を取得する「紛失防止タグ」も有用。

* タグを身に付けていた 80 代男性は、親族からの行方不明届が受理された約 45 分後、自宅から約 70 km 離れた地点で保護されました。

(2025 年 6 月 6 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



- (2)  **速度 30 km規制ゾーンの事故**

歩行の小学生、死者ゼロ 政府、防護柵設置も促進

* 歩行中の小学生が関係した 2020～2024 年の交通事故で、通学路などの最高速度を 30 km に規制する「ゾーン 30」で死者はいませんでした。

*2020～2024 年の交通事故全般において、小学生の死傷者は 3370 人。

*歩行中が 1875 人で 55.6%。歩行中のうち登下校時が 38.2%。

*政府は信号機や横断歩道の設置の有無、通行車両との十分な間隔確保といった観点から、小学校の通学路を対象に合同点検を実施。

*全国約 7 万 6400 か所について「対策が必要」と位置付けました。

*2023 年末までに 94.4%は対策済み。

*注意喚起の看板を設置するなど暫定的な措置を含めると 100%に達しました。

*2024 年の交通事故死者数は 2663 人で、2 年ぶりに減少。

*うち 65 歳以上の高齢者は 1513 人で 56.8%を占めます。

(2025 年 6 月 11 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 施設入所「とても困難」 成人後の重度障がい者

*成人後の重い障害のある人たちが施設入所などを断られ、安心して暮らせる場を持ってないケースが少なくありません。

*強度行動障害：強いストレスや不安などにさらされると自傷や他害、物を壊すといった行動が頻繁に現れ、特別な支援を必要とする状態。

*厚生労働省の調査では、半数近い施設が空床があっても受け入れを断ったことがあると回答。

*国はグループホームなど地域での居住の場への移行を推進していますが、人手不足や支援環境の整備など課題は山積します。

(2025 年 6 月 16 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 視覚障がい者の安全サポート



歩行訓練士「1 人以下」16 県 育成に時間 利用 2 年半待ちも

*視覚障がい者の安全な歩行や日常生活を支える「歩行訓練士」が全国的に不足。

*4 県はゼロ、12 県は 1 人という状況。

*歩行訓練士は厚生労働省認定の民間資格。

*白杖を用いた歩行の訓練だけでなく、点字の読み方やスマートフォンを用いた文字情報の読み上げ、料理や掃除に必要な動きの指導など日常生活を幅広く支えます。

*2024年時点で実際に活動を行っている歩行訓練士は全国に189人。

*社会福祉法人や医療機関など計94機関に所属。

*障害者手帳を持つ視覚障がい者は全国に約27万人（2022年時点）。

*視覚障がい者の7割が60歳以上。

*歩行訓練士養成機関は全国に2か所。

*課程は大卒者が対象で、資格取得に通常2年かかり、履修時間は3000時間超。

（2025年6月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）



(5) 中学生の1割 起床時に不調

自治体が指針 学校に理解促す

自律神経の乱れ要因 梅雨に悪化

*自律神経の不調で朝起きるのが難しくなる「起立性調節障害（OD）」の理解を促そうと、学校向けの指針を定める自治体が相次いでいます。

*ODは血圧などをコントロールする自律神経の不調によって、思春期を中心に起床困難や食欲不振、頭痛といった症状が現れます。

*軽症も含めて中学生の約10%に症状がみられます。

*気圧や気温に左右されやすく、梅雨から夏にかけて症状が悪化する傾向があります。

*午前中に症状が現れ、午後になると回復する特徴があります。

☆起立性調節障害

*自律神経の働きが乱れることで発症。

*ホルモンバランスに変化が生じる思春期前後の発症が目立つ。

*日常生活での治療法として、頭を下げてゆっくり立つことや水分・塩分の補給などが有効とされる。

（2025年6月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）